

認可

[平成19年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

梶山女学園大学 教育学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 梶山女学園
平成22年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

総務部長 コ バヤシ ツグ アキ
 小 林 嗣 明

（担当者 ナカ イ アツ ヒト）
 中 井 厚 仁

電話番号 052-781-4317

FAX 052-781-8831

E-mail soumuka@ml.sugiyama-u.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載いただき、その下欄に

（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部

（□□学部）

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 〇〇学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

「意見伺い」の場合は、表題を修正してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等・・・・・・・・・・・・・・・・	1～3
2	授業科目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	4～10
3	施設・設備の整備状況、経費・・・・・・・・	11～12
4	既設大学等の状況・・・・・・・・	13
5	教員組織の状況・・・・・・・・	14～24
6	留意事項に対する履行状況等・・・・・・・・	25
7	その他全般的事項・・・・・・・・	26～32

(資料) 別紙1 梶山女学園大学全学FD委員会規準

別紙2 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 梶山女学園

(2) 大 学 名

梶山女学園大学

(3) 大学の位置

愛知県名古屋市千種区星が丘元町 17 番 3 号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	認 可 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(スギ ヤマ マサ ヒロ) 梶 山 正 弘 (平成17年4月1日)		
学 長	(イズミ ユウ スケ) 泉 有 亮 (平成16年4年1日)	(ノ ブチ タツ オ) 野 淵 龍 雄 (平成20年4年1日)	前学長の任期満了に伴う変更 (20)
学 部 長	(カ イ シン イチ) 甲 斐 進 一 (平成19年4月1日)		
学科長等		(オオ モリ タカ コ) 大 森 隆 子 (平成19年4月1日)	組織的な学部運営を行うため 保育・初等教育専修担当主任 として任命(19)
		(ミヤカワ ジュウジ) 宮 川 充 司 (平成19年4月1日)	組織的な学部運営を行うため 初等中等教育専修担当主任と して任命(19)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 平成19年度に報告済の内容 → (19)
 平成22年度に報告する内容 → (22)
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください。
・ 様式は、平成19年度開設の4年制の学科の場合(平成22年度までの4年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称、定員

調査対象学部等の 名称(学位)	認可時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
教育学部 子ども発達学科 学士(教育学)	4 年	147 人	2年次 2 人 3年次 3 人	600 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員 超過率	備 考
A 入学定員		147 人	(2) 人 147	((5)) 人 147	((5)) 人 147	1.19倍	【平成21年度】 編入学入学定員 2年次 2名 3年次 3名 【平成22年度】 編入学入学定員 2年次 2名 3年次 3名
志願者数		917 人	(0) 人 1,175	((4)) 人 1,158	((7)) 人 1,274		編入学志願者数 2年次 3名 3年次 1名
受験者数		907 人	(0) 人 1,158	((4)) 人 1,149	((7)) 人 1,260		編入学受験者数 2年次 3名 3年次 1名
合格者数		370 人	(0) 人 495	((4)) 人 490	((3)) 人 400		編入学合格者数 2年次 3名 3年次 1名
B 入学者数		167 人	(0) 人 169	((4)) 人 208	((3)) 人 160		編入学入学者数 2年次 3名 3年次 1名
入学定員超過率 B/A		1.13	(0) 人 1.14	(0.8) 1.41	(0.6) 1.08		編入学入学者数 2年次 2名 3年次 1名

- (注) ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入し、平均入学定員超過率も同様の方法としてください。
・ 「平成22年度」には、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
・ 「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備 考
1年次		[0] 167	[0] 169	[0] 210	[0] 161	
2年次		/	[0] 163	[0] 171	[0] 212	
3年次		/	/	[0] 162	[0] 168	
4年次		/	/	/	[0] 161	
計		[0] 167	[0] 332	[0] 543	[0] 702	

- (注) ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
・ 各年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	退学者数（a）	入学者数（b）	入学者に対する 退学者数の割合 （a/b）
平成１９年度	計３人 [０人]	計１６７人 [０人]	[０%] １．８ %
	うち平成１９年度入学者 ３人	うち平成１９年度 １６７人	
	（主な退学理由） 死亡１名、その他一身上の都合２名		
平成２０年度	計１人 [０人]	計３３６人 [０人]	[０%] ０．３ %
	うち平成１９年度入学者 １人	うち平成１９年度 １６７人	
	うち平成２０年度入学者 ０人	うち平成２０年度 １６９人	
	（主な退学理由） 除籍１名		
平成２１年度	計１人 [０人]	計５４４人 [０人]	[０%] ０．２ %
	うち平成１９年度入学者 ０人	うち平成１９年度 １６７人	
	うち平成２０年度入学者 １人	うち平成２０年度 １６９人	
	うち平成２１年度入学者 ０人	うち平成２１年度 ２０８人	
	（主な退学理由） 進路変更１名		
平成２２年度	計４人 [０人]	計７０４人 [０人]	[０%] ０．６ %
	うち平成１９年度入学者 １人	平成１９年度 １６７人	
	うち平成２０年度入学者 ０人	平成２０年度 １６９人	
	うち平成２１年度入学者 ３人	平成２１年度 ２０８人	
	うち平成２２年度入学者 ０人	平成２２年度 １６０人	
	（主な退学理由） 病気１名、進路変更２名、一身上の都合１名		

(注)・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。

・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。

・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（％）を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。

・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。

・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。

・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

2 授業科目の概要

<教育学部 子ども発達学科>

(1) 授業科目表

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備 考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学共通科目										
人間論	1前	2			1	1				
教養教育科目										
①外国語コミュニケーション										
英語Ⅰ	1通	3								
英語Ⅱ	2通	3								
英語ⅢA（作文・文法等）	3.4通		2							
英語ⅢB（英会話等）	3.4通		3							
中国語入門Ⅰ	2.3.4前		1							
中国語入門Ⅱ	2.3.4後		1							
ハングル入門Ⅰ	2.3.4前		1							
ハングル入門Ⅱ	2.3.4後		1							
ドイツ語入門Ⅰ	2.3.4前		1							
ドイツ語入門Ⅱ	2.3.4後		1							
フランス語入門Ⅰ	2.3.4前		1							
フランス語入門Ⅱ	2.3.4後		1							
ポルトガル語入門Ⅰ	2.3.4前		1							
ポルトガル語入門Ⅱ	2.3.4後		1							
②日本語表現										
日本語表現法（文章作法）	1前・後		2		1					
日本語表現法（話し方）	1前・後		2							
③コンピュータ・リテラシー										
コンピュータと情報（基礎）	1前		2			1				
コンピュータと情報A（表計算等）	1前・後		2			1				
コンピュータと情報B（Web作成等）	1.2前・後		2			1				
④健康とスポーツ										
健康科学	1前	1			1					
スポーツ科学	1後	1			1					
⑤人間と社会・文化										
人類学入門	1.2前		2							
心理学入門	1.2前		2							
哲学入門	1.2後		2							
日本国憲法	2前・後	2								
時事問題の理解	3前		2							
ジェンダー論	2後		2							
人権論	2後		2							
⑥人間と環境・科学										
環境問題の理解	3前		2			1				
数理の世界A（代数・幾何）	1前		2		2					
数理の世界B（解析）	1後		2		1	1				
物理の世界	2後		2							
化学の世界	2後		2							

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備 考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目										
専門基礎科目										
教職論	1後		2			1				
保育職論	3前		2				1			
教育本質論	1前	2			1					
子どもの発達と学習	1前	2			2					教育課程の充実を図るため教員を追加 (20) 担当 梶田 正巳 (教授) 平成19年8月 教員審査済 判定 可
子どもの発達心理学	1前		2		1					
教育制度と社会	1後	2								
幼児理解の理論と方法	1後		2		1					
社会福祉	1後		2		1					
社会福祉援助技術演習	2前		2		1					
児童福祉	2後		2							
幼児教育論	2前		2		1					
養護原理	2後		2		1					
ふれあい実習Ⅰ (観察)	1前	1			5	1	2			
ふれあい実習Ⅱ (参加)	1. 2. 3. 4通		1			1				山田真紀准教授が産休により平成22年度後期を担当できなかったため、後期のみ兼任教員が担当した。(22)
教育ボランティアⅠ	1. 2. 3. 4通		1			1				山田真紀准教授が産休により担当できないため、別の専任教員が担当クラスを追加することにより対応する。(21) 担当 酒井照彦 (准教授) 平成21年6月 変更書提出予定 平成21年8月 教員審査済 判定 可 (22)
教育ボランティアⅡ	2. 3. 4通		1			1				
福祉ボランティアⅠ	1. 2. 3. 4通		1				1			
福祉ボランティアⅡ	2. 3. 4通		1				1			
心理臨床	2. 3. 4前 2. 3. 4後		2							より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更(21)
子どもと伝承遊び	1. 2. 3. 4前		2		1					
基礎ピアノⅠ	1前		1		3	1	1			教育課程の充実を図るため教員を追加 (19) 担当 植松 峻 (教授) 平成19年7月 変更書提出予定 平成19年8月 教員審査済 (20) 判定 可 担当 中田 直宏 (教授) 平成19年7月 変更書提出予定 平成19年8月 教員審査済 (20) 判定 可 担当 畠澤 郎 (教授) 平成19年7月 変更書提出予定 平成19年8月 教員審査済 (20) 判定 可 上記3名の教員については、設置時に計画した担当科目に専念するため、基礎ピアノⅠの担当を兼任教員へ変更 (22)
基礎ピアノⅡ	1後		1		3	1	1			教育課程の充実を図るため教員を追加 (19) 担当 植松 峻 (教授) 平成19年7月 変更書提出予定 平成19年8月 教員審査済 (20) 判定 可 担当 中田 直宏 (教授) 平成19年7月 変更書提出予定 平成19年8月 教員審査済 (20) 判定 可 担当 畠澤 郎 (教授) 平成19年7月 変更書提出予定 平成19年8月 教員審査済 (20) 判定 可 上記3名の教員については、設置時に計画した担当科目に専念するため、基礎ピアノⅡの担当を兼任教員へ変更 (22)

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備 考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門展開科目										
教科（初等）										
国語（書写を含む。）	2前・後		2		1					
社会	2前・後		2		1					
算数	2前・後		2			1				
理科	2前・後		2			1				
生活科	2前・後		2			1				
音楽	1前・後		2		2 +					教育課程の充実を図るため教員を追加（21） 担当 畠澤 郎（教授） 平成20年8月 教員審査済（21） 判定 可
図画工作	1前 1前・後		2		1					より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更（21）
家庭科	2前・後		2			1				
体育	1後 1前		2		1					より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更（21）
教科（数学）										
代数学基礎	1.2前		2		1					
幾何学基礎	1.2後		2		1					
解析学基礎Ⅰ	1.2前		2			1				
解析学基礎Ⅱ	1.2後		2			1				
代数学Ⅰ	2.3前		2		1					
代数学Ⅱ	2.3後		2		1					
幾何学A（様々の幾何）	2.3前		2		1					
幾何学B（位相）	2.3後		2		1					
解析学ⅠA（多変数微積分学）	2.3前		2			1				
解析学ⅠB（常微分方程式）	2.3前		2			1				
解析学Ⅱ	2.3後		2			1				
確率論・統計学	2.3後		2		1					
コンピュータⅠ	2前		2		1					
コンピュータⅡ	2後		2			1				
数学演習Ⅰ	1.2前		1		2					
数学演習Ⅱ	1.2後		1		2					
代数学・幾何学演習Ⅰ	2.3前		1		2					
代数学・幾何学演習Ⅱ	2.3後		1		2					
解析学演習Ⅰ	2.3前		1			1				
解析学演習Ⅱ	2.3後		1			1				
コンピュータ演習	2.3前		1		1	1				
情報処理演習	2.3後		1		1	1				
代数学統論	3.4後		2							
幾何学統論	3.4前		2							
解析学統論	3.4前		2			1				
離散数学	3.4後		2							
数学史	3.4前		2		1					
現代数学入門A（言葉と体系）	3.4前		2		2					
現代数学入門B（構造の科学）	3.4後		2		1	1				
教科（音楽）										
ソルフェージュ	1前		1		1					
合唱Ⅰ	1後		1		1					
合唱Ⅱ	2後		1		1					
音楽概論	1前		2		1					
音楽Ⅰ	2前		1		1					
音楽Ⅱ	2後		1		1					

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備 考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
声楽セミナーⅠ	3.4前		1		1					
声楽セミナーⅡ	3.4後		1		1					
ピアノ概論	1前		2				1			
ピアノⅠ	2前		1			1				
ピアノⅡ	2後		1			1				
ピアノセミナーⅠ	3.4前		1			1				
ピアノセミナーⅡ	3.4後		1			1				
ピアノ伴奏法	2前		1			1				
器楽概論	1後		2		1					
器楽Ⅰ	2前		1							
器楽Ⅱ	2後		1							
器楽セミナーⅠ	3.4前		1							
器楽セミナーⅡ	3.4後		1							
器楽合奏法	3.4後		1		1					
日本の音楽A（楽器）	2集		1							
日本の音楽B（声楽）	2集		1							
指揮法	3.4後		1		1					
音楽史A（日本及びアジアの音楽）	2前		2							
音楽史B（西洋の音楽）	2後		2		1					
作曲法Ⅰ（和声・編曲を含む。）	3.4前		1		1					
作曲法Ⅱ（和声・編曲を含む。）	3.4後		1		1					
音楽理論	1後		2		1					
各教科の指導法										
国語の指導法	3前・後		2		1					
社会の指導法	3前・後		2		1					
算数の指導法	3前・後		2			1				
数学の指導法Ⅰ	2前		2		1					
数学の指導法Ⅱ	2後		2		1					
数学の指導法Ⅲ	3前		2		1					
数学の指導法Ⅳ	3後		2		1					
理科の指導法	3前・後		2							
生活科の指導法	3前・後		2							
音楽の指導法Ⅰ	2前 2前・後		2		1		1			より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更(21)
音楽の指導法Ⅱ	2後		2		1					
音楽の指導法Ⅲ	3前		2		1					
音楽の指導法Ⅳ	3後		2		1					
図画工作の指導法	2後 2前・後		2		1					より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更(21)
家庭科の指導法	3前・後		2			1				
体育の指導法	2前・後		2		1					
保育										
保育内容総論	1前		2		1					
保育指導法（人間関係）	2後		2		1					
保育指導法（言葉）	1後		2		1					
保育指導法（健康）	1後		2							
保育指導法（表現A）	2前・後		2		1					
保育指導法（表現B）	2前・後		2				1			
保育指導法（環境）	1前		2		1					
小児保健A（発育・疾病等）	1後		2		1					
小児保健B（公衆衛生）	2前		2		1					

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備 考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
小児保健実習	3前		1		1					
小児栄養演習	3後		2		1					
精神保健	2後		2		1					
家族援助論	3後		2		1					
乳児保育演習	2前		2							
障害児保育演習	3後 3前		1		1					より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更(21)
養護内容演習	3後		1							
保育実習指導	2通		1		1		1			
保育実習ⅠA(保育所)	2前		2		3		2			
保育実習ⅠB(児童福祉施設)	2後		2		3		2			
保育実習Ⅱ(保育所)	3前		2		3		2			
保育実習Ⅲ(児童福祉施設)	3後		2		3		2			
教職										
総合演習	2後	2			5	3 2 3				山田真紀准教授が産休から復職したため、平成22年度は設置時の計画どおり担当する。(22) 教育職員免許法施行規則の改正に伴い平成22年度入学生より「総合演習」に代わり「教職実践演習」の修得が必修化されたため、平成22年度入学生の授業科目から削除した。(22) 山田真紀准教授が産休により担当できないため、別の専任教員が担当クラスを追加することにより対応する。(21) 担当 宮川 充司(教授) 前判定 可 平成18年8月 嵯山女学園大学教育学部 子ども発達学科 「子どもの発達と学習」 「ふれあい実習Ⅰ(観察)」 「総合演習」 「教育相談の研究」 「介護等体験」 「卒業研究」 教育課程の充実を図るため教員を追加(20) 担当 梶田 正巳(教授) 平成19年7月 教員審査済 判定 可
教職実践演習(教諭)	4後	2			4	3	1			教育職員免許法施行規則の改正に伴い平成22年度入学生より「教職実践演習」の修得が必修化されたことにより、科目を追加。(22)
カリキュラム論	2前・後	2								
道徳の指導法	3前・後		2			1				
特別活動の指導法	3前・後		2			1				
教育の方法と技術	2前・後	2				1				
生徒指導の研究(進路指導の理論及び方法を含む。)	3前・後		2							
教育相談の研究	3前・後	2			1					
教育統計	2前		2							
事前及び事後指導	3.4通	1			2	2	1			
教育実習A	3.4通		2		2	2	1			
教育実習B	3.4通		2		2	2	1			
教育実習C	3.4通 4通		4		2	2	1			平成20年12月24日付けの「教職課程認定基準の一部改正」による規定の整備により、本学の教育学部の教員養成課程のカリキュラムとの間に差異が出たため、整備された規定に基づく実習期間を確保し、学生に必要な実習を行わせるための措置として開講年次を変更した。(22)
介護等体験	3通		1		2					
実践研究科目										
特別支援教育Ⅰ(発達障害の理解)	3.4前		2		1					
特別支援教育Ⅱ(発達支援の方法)	3.4後		2		1					
模擬授業演習	3前	1			4	3 2				教育課程の充実を図るため教員を追加(22) 担当 坂本徳弥(准教授) 平成22年2月 教員審査済(22) 判定 可

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備 考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
キャンプ・レクリエーション	3.4前		1							
子どもの異文化間教育	3.4後 3-4前		2		1					より教育効果の高い時間割編成のため開講期別を変更(21)
子どもの情報教育	3.4後		2			1				
子どもの外国語教育	3.4前		2							
いのちの教育	3.4後		2		2					
海外教育研修Ⅰ（事前指導）	1.2.3.4前		2		1	1				
海外教育研修Ⅱ（実地研修）	1.2.3.4前		4		1	4				宇土泰寛教授が相山女学園大学附属小学校長に就任したことに伴う担当者の変更。別の専任教員が担当するよう内容を変更。(22) 担当 磯部 錦司(教授) 平成22年6月 変更書提出予定 宇土泰寛教授、山田真紀准教授のオムニバス科目であったが、山田真紀准教授が産休により担当できないため、宇土泰寛教授が単独で対応するよう内容を変更(21) 担当 宇土 泰寛(教授) 平成21年6月 変更書提出予定 平成21年8月 教員審査済 判定 可
ケースメソッドⅠ	3.4前	1			9	2	1			教育課程の充実を図るため教員を追加(20) 担当 梶田 正巳(教授) 平成19年8月 教員審査済 判定 可
ケースメソッドⅡ	3.4後	1			5 6	4	2			宇土泰寛教授が相山女学園大学附属小学校長に就任したことに伴う担当者の変更。宇土教授担当分については、既に配置されている他の教員が補うため、教育への支障はない。(22) 教育課程の充実を図るため教員を追加(20) 担当 梶田 正巳(教授) 平成19年8月 教員審査済 判定 可
卒業研究	4通	8			17	8	2			教育課程の充実を図るため教員を追加(20) 担当 梶田 正巳(教授) 平成19年8月 教員審査済 判定 可

(注) ・認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。

- ・設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載いただき、設置認可時より変更されているものは赤字で見え消し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- ・授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
19	166	0	185	19	166	0	185	
				[]	[]	[]	[]	

(注)・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[] 内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	海外教育研修Ⅱ (実地研修)	4	1・2・3・4	専門	選択	新型インフルエンザの影響により、学生の安全を確保するため、平成21年度は中止した。

(注)・設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	総合演習	2	2	専門	必修	教育職員免許法施行規則の改正に伴い平成22年度入学生より「総合演習」が廃止され、「教職実践演習」の修得が必修化されたため、「総合演習」を廃止する。 なお、平成21年度以前入学生については、「総合演習」設置時の計画どおり開講する。

(注)・設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

【未開講科目】 平成21年度に新型インフルエンザが流行したため、本学においても危機管理委員会にて慎重に対応を協議し、感染者及び疑いのある国への渡航を自粛又は延期する方針を決定した。それに伴い、海外研修等のプログラムを中止することとなったため、「海外研修Ⅱ(実地研修)」についても平成21年度は中止することとなった。平成22年度は実施する予定である。学生に対しては事前指導等において周知するとともに、関係の保護者に対しては別途通知を行った。 【廃止科目】 教育職員免許法施行規則の改正に伴う授業科目変更であり、また、平成21年度以前入学生については、設置時の計画どおり開講するため教育上影響はない。学生に対しては学生全員に配付する「履修の手引」に変更内容を記載し、周知する。
--

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = 0.01$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

(星が丘キャンパス)

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	星が丘キャンパス分の みに記載変更 (20) 運動場については校舎 敷地と別地 (バス12 分)		
	校 舎 敷 地	48,296.76 m ²			48,296.76 m ²			
	運動場用地	52,275.00 m ²			52,275.00 m ²			
	小 計	100,571.76 m ²			100,571.76 m ²			
	そ の 他	2,781.24 m ²			2,781.24 m ²			
	合 計	103,353.00 m ²			103,353.00 m ²			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	新学部棟の建設による 変更 (22) 他学部棟の増築による 変更 (21) 星が丘キャンパス分の みに記載変更 (20)		
		50,464.78 m ² (50464.78 m ²) 44,207.87 m ² － (44,207.87 m ²) 44,081.64 m ² － (44,081.64 m ²)	1,221.75 m ² (1,221.75 m ²)	－ m ² (－ m ²)	50,464.78 m ² (50464.78 m ²) 45,429.59 m ² － (45,429.59 m ²) 44,081.64 m ² － (44,081.64 m ²)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	新学部棟建設による変 更 (22) 平成20年度改修工事に よる変更 (21) 星が丘キャンパス分の みに記載変更 (20)		
	84室 80室 77室	61室 49室 50室	90室 83室 80室	26室 25室 (補助職員11人)	0室 1室 (補助職員0人) －(補助職員1人)－			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		教育学部 子ども発達学科			27 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	新学部開設に伴う取 得・処分による変更 (22) 平成20年度取得・処分 による変更 (21) 星が丘キャンパス分の みに記載変更 (20)
	教育学部	343,390 [78,404] 338,220 [77,967] 330,995 [77,384] (330,995 [77,384])	2,011 [639] 2,004 [635] 1,987 [628] (1,987 [628])	5 (1) 2,362 (2,362) 2,374 [2,374] (2,374 [2,374])	18,324 18,081 18,810 (18,081)	5,505 4,201 (4,201) 4,231 (4,231)	108 87 (87) 94 (94)	
	計	343,390 [78,404] 338,220 [77,967] 330,995 [77,384] (330,995 [77,384])	2,011 [639] 2,004 [635] 1,987 [628] (1,987 [628])	5 (1) 2,362 (2,362) 2,374 [2,374] (2,374 [2,374])	18,324 18,081 18,810 (18,081)	5,505 4,201 (4,201) 4,231 (4,231)	108 87 (87) 94 (94)	
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
		3,427.97 m ²	440 席 500 席		323,789 冊			
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					
		3,980.94 m ²	テ ニ ス コ ー ト 6 面		ゴ ル フ 練 習 場 20 打 席			

(8) 経費の見 積り及び 維持方法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分		開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	1. 共同研究費 (1) Aは学部の教員を対象とし、配分は学部長が教員の希望を取りまとめ教授会で決定する。 (2) Bは全学の教員を対象とし、委員会で配分を取りまとめ、学長が決定する。 2. 海外研修旅費は長期（6カ月以上1年以内）と短期（1カ月以上3カ月以内）について、全学を対象とし、学長が選考委員会に諮問し、その結果を理事長に報告して、理事会で決定する。海外研修に必要な交通費及び滞在費はその都度予算化する。 3. 上記の他、全学を対象として、国内研修旅費（3カ月以上6カ月以内）を海外研修旅費に準じて決定する。また、教員の学術研究の成果の図書出版に対して、学長が審査委員会の審査を経て助成対象図書を決定し、理事長の承諾を得て1件1,500千円以内の助成を決定する。 4. 開設年度以降の図書購入費及び設備購入費については、新規事業予算としての見積りはない。経常費予算の中で必要額を予算化して対応する。
		教員 1 人当り 研究 費 等		実験系 862千円 非実験系 579千円	実験系 862千円 非実験系 579千円	図書購入費	10,000千円	0千円	0千円	
		共 同 研 究 費 等		A 3,000千円 B 15,000千円	A 3,000千円 B 15,000千円	設備購入費	303,434千円	0千円	0千円	
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
		1,320千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	一 千円	一 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						

- (注) ・ 設置認可時の計画を認可申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。
- ・ 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
 - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	椋山女学園大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は称号	定員 超過率	開設年度	所在地	
生活科学部 管理栄養学科	4	120	—	495	学士 (生活科学)	1.08	昭和24	名古屋市千種 区星が丘元町 17番3号	平成19年度から食品栄養 学科の専攻（食品栄養学専 攻及び管理栄養士専攻）を 廃止し管理栄養学科に名称 変更 平成19年度から入学定員 を変更（食品栄養学科135 人→管理栄養学科120人）
生活環境デザイン学科	4	132	2年次 2 3年次 3	540	学士 (生活科学)	1.11	昭和24		
国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学科	4	105	2年次 4 3年次 4	440	学士 (国際コミュニケーション 学)	1.15	平成15		
表現文化学科	4	95	2年次 4 3年次 4	400	学士 (国際コミュニケーション 学)	1.24	平成15		
人間関係学部 人間関係学科	4	120	3年次 8	526	学士 (人間関係学)	1.19	昭和62	愛知県日進市 岩崎町竹ノ山 37番234	平成19年度から入学定員 を変更（150人→120 人） 平成19年度から3年次編入 学定員を変更（15人→8 人） 平成19年度から臨床心理 学科を心理学科に名称変更 平成19年度から臨床心理 学科の3年次編入学定員を 変更（15人→8人）
心理学科	4	100	3年次 8	416	学士 (人間関係学)	1.22	平成14		
文化情報学部 文化情報学科	4	200	3年次 5	840	学士 (文化情報学)	1.17	平成12	名古屋市千種 区星が丘元町 17番3号	平成19年度から入学定員 を変更（230人→200 人） 平成19年度から3年次編入 学定員を変更（20人→5 人）
現代マネジメント学部 現代マネジメント学科	4	170	—	680	学士 (マネジメント)	1.15	平成15		
教育学部 子ども発達学科	4	147	2年次 2 3年次 3	448	学士 (教育学)	1.19	平成19		
看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.05	平成22		

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校等の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。（専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）

・認可申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。

・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）の記載は不要です。

・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学部 子ども教育学科>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教 授	甲斐 進一	平成19年4月	人間論 教育本質論 ふれあい実習Ⅰ(観察) 総合演習 ケースメソッドⅠ 卒業研究						
専	教 授	石橋 尚子	平成19年4月	子どもの発達心理学 幼児理解の理論と方法 幼児教育論 保育指導法(人間関係) 保育実習指導 保育実習ⅠA(保育所) 保育実習ⅠB(児童福祉施設) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅲ(児童福祉施設) いのちの教育 ケースメソッドⅠ ケースメソッドⅡ 卒業研究						
専	教 授	磯部 錦司	平成19年4月	図画工作 図画工作の指導法 保育指導法(表現A) 総合演習 模擬授業演習 ケースメソッドⅠ 卒業研究						
専	教 授	植松 峻	平成19年4月	音楽 ソルフェージュ 合唱Ⅰ 合唱Ⅱ 声楽概論 声楽Ⅰ 声楽Ⅱ 声楽セミナーⅠ 声楽セミナーⅡ 指揮法 卒業研究	専	教 授	植松 峻	平成19年4月	音楽 ソルフェージュ 合唱Ⅰ 合唱Ⅱ 声楽概論 声楽Ⅰ 声楽Ⅱ 声楽セミナーⅠ 声楽セミナーⅡ 指揮法 卒業研究 基礎ピアノⅠ 基礎ピアノⅡ	設置時に計画した担当科目に専念するため、平成22年4月から兼任教員へ変更(22) 教育課程の充実を図るため平成20年4月から担当科目を追加 平成19年7月 変更書提出予定(19) 平成19年8月 教員審査済(20) 設置時に計画した担当科目に専念するため、平成22年4月から兼任教員へ変更(22) 教育課程の充実を図るため平成20年4月から担当科目を追加 平成19年7月 変更書提出予定(19) 平成19年8月 教員審査済(20)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教 授	宇土 泰寛	平成19年4月	社会 社会の指導法 模擬授業演習 子どもの異文化間教育 海外教育研修Ⅰ(事前指導)	専	教 授	宇土 泰寛	平成19年4月	社会 社会の指導法 模擬授業演習 子どもの異文化間教育 海外教育研修Ⅰ(事前指導)	平成22年4月眉山女学園 大学附属小学校長兼務 (22)
				海外教育研修Ⅱ(実地研修)	専	教 授	磯部 錦司	平成19年4月	海外教育研修Ⅱ(実地研修)	眉山女学園大学附属小学 校長に就任したことに伴う 担当者の変更(22) 平成22年6月 変更書提出予定
				ケースメソッドⅡ						眉山女学園大学附属小学 校長に就任したことに伴 い、宇土教授を担当から外 す。これにより開講クラス が1クラス減となるが、宇土 教授担当分については、 既に配置されている他の 教員が補うため、教育への 支障はない(22)
				卒業研究					卒業研究	
					兼任	講師	中村太貴生	平成21年4月	社会 社会科の指導法	宇土泰寛教授が眉山女学 園大学附属小学校長に就 任したことに伴い、2クラス 担当のうち1クラスを兼任 教員へ変更する。(22) 宇土泰寛教授が眉山女学 園大学附属小学校長に就 任したことに伴い、4クラス 担当のうち3クラスを兼任 教員へ変更し、うち2クラス を中村講師が担当する。 (22)
					兼任	講師	古田 憲彦	平成22年4月	社会科の指導法	宇土泰寛教授が眉山女学 園大学附属小学校長に就 任したことに伴い、4クラス 担当のうち3クラスを兼任 教員へ変更し、うち1クラス を古田講師が担当する。 (22)
専	教 授	大森 隆子	平成19年4月	子どもと伝承遊び 保育内容総論 保育指導法(言葉) 保育指導法(環境) 家族援助論 保育実習ⅠA(保育所) 保育実習ⅠB(児童福祉施設) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅲ(児童福祉施設) ケースメソッドⅠ ケースメソッドⅡ 卒業研究						
専	教 授	國井 修一	平成19年4月	健康科学 スポーツ科学 ふれあい実習Ⅰ(観察) 体育 体育の指導法 卒業研究						
専	教 授	佐藤 厚子	平成19年4月	日本語表現法(文章作法) ふれあい実習Ⅰ(観察) 国語(書写を含む。) ケースメソッドⅠ 卒業研究						
専	教 授	竹内 聖彦	平成19年4月	数理の世界A(代数・幾何) 代数学基礎 代数学Ⅰ 代数学Ⅱ 幾何学B(位相) 確率論・統計学 コンピュータⅠ 数学演習Ⅰ 数学演習Ⅱ 代数学・幾何学演習Ⅰ 代数学・幾何学演習Ⅱ コンピュータ演習 情報処理演習 現代数学入門A(言葉と体系) 卒業研究						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教 授	武山 隆昭	平成19年4月	国語の指導法 模擬授業演習 ケースメソッドⅡ 卒業研究						
専	教 授	田中 俊雄	平成19年4月	社会福祉 社会福祉援助技術演習 養護原理 障害児保育演習 保育実習ⅠA(保育所) 保育実習ⅠB(児童福祉施設) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅲ(児童福祉施設) 総合演習 介護等体験 特別支援教育Ⅰ(発達障害の理解) 特別支援教育Ⅱ(発達支援の方法) ケースメソッドⅠ 卒業研究						
専	教 授	中島 正夫	平成19年4月	小児保健A(発育・疾病等) 小児保健B(公衆衛生) 小児保健実習 小児栄養演習 精神保健 いのちの教育 ケースメソッドⅠ ケースメソッドⅡ 卒業研究						
専	教 授	中田 直宏	平成19年4月	器楽概論 器楽合奏法 音楽史B(西洋の音楽) 作曲法Ⅰ(和声・編曲を含む。) 作曲法Ⅱ(和声・編曲を含む。) 音楽理論 ケースメソッドⅠ 卒業研究	専	教 授	中田 直宏	平成19年4月	器楽概論 器楽合奏法 音楽史B(西洋の音楽) 作曲法Ⅰ(和声・編曲を含む。) 作曲法Ⅱ(和声・編曲を含む。) 音楽理論 ケースメソッドⅠ 卒業研究	
									基礎ピアノⅠ	設置時に計画した担当科目に専念するため、平成22年4月から兼任教員へ変更(22) 教育課程の充実を図るため平成20年4月から担当科目を追加 平成19年7月 変更書提出予定(19) 平成19年8月 教員審査済(20)
									基礎ピアノⅡ	設置時に計画した担当科目に専念するため、平成22年4月から兼任教員へ変更(22) 教育課程の充実を図るため平成20年4月から担当科目を追加 平成19年7月 変更書提出予定(19) 平成19年8月 教員審査済(20)
専	教 授	浪川 幸彦	平成20年4月	数理の世界A(代数・幾何) 数理の世界B(解析) 幾何学基礎 幾何学A(様々な幾何) 数学演習Ⅰ 数学演習Ⅱ 代数学・幾何学演習Ⅰ 代数学・幾何学演習Ⅱ 数学史 現代数学入門A(言葉と体系) 現代数学入門B(構造の科学) 数学の指導法Ⅰ 数学の指導法Ⅱ 数学の指導法Ⅲ 数学の指導法Ⅳ 事前及び事後指導 教育実習A 教育実習B 教育実習C 卒業研究						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	浪川 幸彦	平成19年4月	数理の世界A(代数・幾何) 数理の世界B(解析) 幾何学基礎 数学演習Ⅰ 数学演習Ⅱ						
専	教授	畠澤 郎	平成20年4月	ふれあい実習Ⅰ(観察) 音楽の指導法Ⅰ 音楽の指導法Ⅱ 音楽の指導法Ⅲ 音楽の指導法Ⅳ 事前及び事後指導 教育実習A 教育実習B 教育実習C 模擬授業演習 卒業研究	専	教授	畠澤 郎	平成20年4月	ふれあい実習Ⅰ(観察) 音楽の指導法Ⅰ 音楽の指導法Ⅱ 音楽の指導法Ⅲ 音楽の指導法Ⅳ 事前及び事後指導 教育実習A 教育実習B 教育実習C 模擬授業演習 卒業研究	
									基礎ピアノⅠ	設置時に計画した担当科目に専念するため、平成22年4月から兼任教員へ変更(22) 教育課程の充実を図るため平成20年4月から担当科目を追加 平成19年7月 変更書提出予定(19) 平成19年8月 教員審査済(20)
									基礎ピアノⅡ	設置時に計画した担当科目に専念するため、平成22年4月から兼任教員へ変更(22) 教育課程の充実を図るため平成20年4月から担当科目を追加 平成19年7月 変更書提出予定(19) 平成19年8月 教員審査済(20)
									音楽	教育課程の充実を図るため平成20年9月から担当科目を追加 平成20年8月 教員審査済(21)
専	教授	宮川 充司	平成19年4月	子どもの発達と学習 ふれあい実習Ⅰ(観察) 総合演習 教育相談の研究 介護等体験 卒業研究	専	教授	宮川 充司	平成19年4月	子どもの発達と学習 ふれあい実習Ⅰ(観察) 総合演習 教育相談の研究 介護等体験 卒業研究 (人間論※)	※担当教員の産休による授業の対応のためAC教員審査を受けたが、対象教員が復帰したため、実際に担当せず。 平成22年2月 教員審査済(22)
専	准教授	酒井 照彦	平成19年4月	教職論 算数 算数の指導法 事前及び事後指導 教育実習A 教育実習B 教育実習C 模擬授業演習 卒業研究						
専	准教授	坂本 徳弥	平成19年4月	総合演習 教育の方法と技術 事前及び事後指導 教育実習A 教育実習B 教育実習C 子どもの情報教育 ケースメソッドⅡ 卒業研究	専	准教授	坂本 徳弥	平成19年4月	総合演習 教育の方法と技術 事前及び事後指導 教育実習A 教育実習B 教育実習C 子どもの情報教育 ケースメソッドⅡ 卒業研究 ふれあい実習Ⅰ(観察)※ 模擬授業演習	※担当教員の産休による授業の対応のためAC教員審査を受けたが、対象教員が復帰したため、実際に担当せず。 平成22年2月 教員審査済(22) 教育課程の充実を図るため平成22年4月から担当科目を追加 平成22年2月教員審査済(22)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	白井 朗	平成19年4月	数理の世界B(解析) 解析学基礎Ⅰ 解析学基礎Ⅱ 解析学ⅠA(多変数微積分学) 解析学ⅠB(常微分方程式) 解析学Ⅱ コンピュータⅡ 解析学演習Ⅰ 解析学演習Ⅱ コンピュータ演習 情報処理演習 解析学統論 現代数学入門B(構造の科学) 卒業研究						
専	准教授	野崎 健太郎	平成19年4月	環境問題の理解 理科 生活科 ケースメソッドⅠ ケースメソッドⅡ 卒業研究						
専	准教授	深谷 和義	平成19年4月	コンピュータと情報 (基礎) コンピュータと情報A(表計算等) コンピュータと情報B(Web作成等) ケースメソッドⅠ ケースメソッドⅡ 卒業研究						
専	准教授	宮田 俊雄	平成19年4月	基礎ピアノⅠ 基礎ピアノⅡ ピアノⅠ ピアノⅡ ピアノセミナーⅠ ピアノセミナーⅡ ピアノ伴奏法 ケースメソッドⅡ 卒業研究						
専	准教授	室 雅子	平成19年4月	家庭科 家庭科の指導法 総合演習 模擬授業演習 卒業研究						

認可時の計画					変更状況					備考			
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名				
専	准教授	山田 真紀	平成19年4月	人間論 ふれあい実習Ⅰ（観察） ふれあい実習Ⅱ（参加）	専	准教授	山田 真紀	平成19年4月	人間論 ふれあい実習Ⅰ（観察）				
					兼任	講師	中村太貴生	平成21年4月	ふれあい実習Ⅱ（参加）				
				教育ボランティアⅠ 教育ボランティアⅡ	専	准教授	酒井 照彦	平成19年4月	教育ボランティアⅠ 教育ボランティアⅡ	平成22年度は設置時の計画どおり担当。(22) オムニバス形式に変更した上で、平成21年度のみ臨時に担当者を変更(21)			
				総合演習						平成22年度は設置時の計画どおり担当。(22) 平成21年度のみ宮川充司教授が担当クラスを1クラスから2クラスへ増やすことにより臨時に対応(21) 前判定 可 平成18年8月 椋山女学園大学教育学部 子ども発達学科 「子どもの発達と学習」 「ふれあい実習Ⅰ（観察）」 「総合演習」 「教育相談の研究」 「介護等体験」 「卒業研究」			
				道徳の指導法 特別活動の指導法	兼任	講師	林 幸克	平成21年9月	道徳の指導法 特別活動の指導法	平成21年度後期開講分のみ臨時に担当者を変更(21)			
				海外教育研修Ⅰ（事前指導） 海外教育研修Ⅱ（実地研修）					海外教育研修Ⅰ（事前指導） 海外教育研修Ⅱ（実地研修）	オムニバス形式（担当者：宇土泰寛・山田真紀の2名）の授業を宇土泰寛教授1名が担当することに変更 平成21年6月 変更書提出予定(21) 平成21年8月教員審査済(22)			
				卒業研究					卒業研究				
				専	講師	清 葉子	平成19年4月	保育職論 ふれあい実習Ⅰ（観察） 福祉ボランティアⅠ 福祉ボランティアⅡ 保育実習指導 保育実習ⅠA（保育所） 保育実習ⅠB（児童福祉施設） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（児童福祉施設） 事前及び事後指導 教育実習A 教育実習B 教育実習C ケースメソッドⅠ ケースメソッドⅡ 卒業研究					

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講 師	小杉 裕子	平成19年4月	ふれあい実習Ⅰ(観察) 基礎ピアノⅠ 基礎ピアノⅡ ピアノ概論 音楽の指導法Ⅰ 保育指導法(表現B) 保育実習ⅠA(保育所) 保育実習ⅠB(児童福祉施設) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅲ(児童福祉施設) ケースメソッドⅡ 卒業研究						
					専	教 授	梶田 正己	平成19年10月	子どもの発達と学習 総合演習 ケースメソッドⅠ ケースメソッドⅡ 卒業研究	平成19年10月 新規採用 平成19年8月 教員審査済(20) 平成20年4月眉山女学園 高等学校・中学校長兼務 (21) 平成20年4月眉山女学園 理事就任(21)
兼任	教 授	北岡 崇	平成19年4月	哲学入門						
兼任	教 授	黒柳 晴夫	平成19年4月	教育制度と社会	兼任	講 師	田子 健	平成21年4月	教育制度と社会	平成21年4月 前任者辞退による担当者 変更(21)
兼任	教 授	谷口 俊治	平成19年4月	心理学入門						
兼任	教 授	山中 市衛	平成19年4月	スポーツ科学						
兼任	講 師	愛敬 浩二	平成20年4月	日本国憲法 人権論						
兼任	講 師	糸 健太郎	平成21年4月	幾何学統論						
兼任	講 師	伊藤 博美	平成20年4月	ジェンダー論						
兼任	講 師	Adrienne Jeanne Glad	平成20年4月	英語Ⅱ	兼任	講 師	Michael Delve	平成20年4月	英語Ⅱ	平成20年4月 前任者辞退による担当者 変更及びクラス編成の都 合による担当者追加(20)
					兼任	講 師	Rachel Marie Miller	平成20年4月	英語Ⅱ	
					兼任	講 師	Patricia Persad	平成21年4月	英語Ⅱ	平成21年4月 前任者辞退による担当者 変更(21)
					兼任	講 師	Nicola Threlfal	平成21年4月	英語Ⅱ	
					兼任	講 師	Rachel Marie Miller	平成21年9月	英語Ⅱ	平成21年9月 前任者辞退による担当者 変更(22)
					兼任	講 師	Hearfield Laura	平成21年4月	英語Ⅱ	
					兼任	講 師	Karr Debra Louise	平成22年4月	英語Ⅱ	平成22年4月 前任者辞退による担当者 変更(22)
					兼任	講 師	Cote Erin Elizabeth	平成22年4月	英語Ⅱ	
兼任	講 師	荻野 砂和子	平成20年4月	声楽Ⅰ 声楽Ⅱ 声楽セミナーⅠ 声楽セミナーⅡ						
兼任	講 師	奥平 俊子	平成20年4月	児童福祉						
兼任	講 師	加藤 純一	平成21年4月	生徒指導の研究(進路指 導の理論及び方法を含 む)						
兼任	講 師	川泉 文男	平成20年4月	化学の世界						
兼任	講 師	Keith John Vargo	平成19年4月	英語Ⅰ	兼任	講 師	Zoe Anna Sutton	平成19年4月	英語Ⅰ	平成19年4月 前任者辞退による担当者 変更(19)
					兼任	講 師	Iain Maloney	平成20年4月	英語Ⅰ	平成20年4月 前任者辞退による担当者 変更及びクラス編成の都 合による担当者追加(20)
					兼任	講 師	Patricia Persad	平成20年4月	英語Ⅰ	
					兼任	講 師	Rebecca Benedict	平成20年9月	英語Ⅰ	平成20年9月 前任者辞退による担当者 変更(20)
					兼任	講 師	Shawn Weldon	平成20年9月	英語Ⅰ	

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任 講師	Patricia Persad	平成21年4月	英語 I	平成21年4月 前任者辞退による担当者 変更(21)	
					兼任 講師	Nicola Threlfal	平成21年4月	英語 I		
					兼任 講師	Rachel Marie Miller	平成21年9月	英語 I	平成21年9月 前任者辞退による担当者 変更(22)	
					兼任 講師	Hearfield Laura	平成21年9月	英語 I		
					兼任 講師	Karr Debra Louise	平成22年4月	英語 I	平成22年4月 前任者辞退による担当者 変更(22)	
					兼任 講師	Cote Erin Elizabeth	平成22年4月	英語 I		
兼任 講師		金 由那	平成20年4月	ハングル入門 I ハングル入門 II						
兼任 講師		後藤 紀夫	平成19年4月	日本語表現法(話し方)						
兼任 講師		小西 由利子	平成19年4月	保育指導法(健康)						
兼任 講師		小林 久見子	平成20年4月	フランス語入門 I フランス語入門 II						
兼任 講師		齋藤 宏保	平成21年4月	時事問題の理解	兼任 講師	吉田 武史	平成22年4月	時事問題の理解	平成22年4月 前任者辞退による担当者 変更(22)	
兼任 講師		定行 和子	平成19年4月	基礎ピアノ I 基礎ピアノ II						
兼任 講師		佐藤 枝里	平成20年4月	心理臨床	兼任 講師	西原 美貴	平成21年4月	心理臨床	平成21年4月 前任者辞退による担当者 変更(21)	
兼任 講師		佐野 由於	平成20年4月	日本の音楽B(声楽)						
兼任 講師		澤井 一恵	平成20年4月	日本の音楽A(楽器)						
兼任 講師		庄田 昭人	平成20年4月	国語(書写を含む。) 国語の指導法						
兼任 講師		庄 兵	平成20年4月	中国語入門 I 中国語入門 II	兼任 講師	寺西 光輝	平成20年4月	中国語入門 I 中国語入門 II	平成20年4月 前任者辞退による担当者 変更(20)	
兼任 講師		高野 智	平成19年4月	人類学入門						
兼任 講師		高橋 伸行	平成21年4月	理科の指導法	兼任 講師	遠西 昭壽	平成21年4月	理科の指導法	平成22年4月 前任者辞退により、4クラス のうち2クラスを担当してい た兼任教員が担当クラスを 追加する。(22)	
兼任 講師		高橋 隆二	平成20年4月	音楽史A(日本及びアジアの音楽)						
兼任 講師		竹内 政雄	平成21年4月	英語ⅢA(作文・文法等)						
兼任 講師		千野 直仁	平成20年4月	教育統計						
兼任 講師		常田 美穂	平成20年4月	乳児保育演習	兼任 講師	小島 千恵子	平成20年4月	乳児保育演習	平成20年4月 担当者変更(20)	
兼任 講師		寺井 陽一	平成21年4月	養護内容演習						
兼任 講師		遠西 昭壽	平成21年4月	理科の指導法						
兼任 講師		中野 典子	平成21年4月	小児栄養演習						
兼任 講師		中村 太貴生	平成21年4月	生活科の指導法						
兼任 講師		橋本 悦子	平成20年4月	ドイツ語入門 I ドイツ語入門 II						
兼任 講師		長谷川 京子	平成21年4月	子どもの外国語教育						
兼任 講師		秦 真人	平成21年4月	キャンプ・レクリエーション						
兼任 講師		林 孝宏	平成21年4月	代数学続論						
兼任 講師		Philip Gerard Colley	平成19年4月	英語 I	兼任 講師	Christalla Havadjia	平成19年4月	英語 I	平成19年4月 前任者辞退による担当者 変更(19)	
					兼任 講師	Michael Delve	平成19年9月	英語 I	平成19年9月 前任者辞退による担当者 変更(20)	

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任 講師	Rachel Marie Miller		平成20年4月	英語 I	平成20年4月 クラス編成の都合による担当者追加(20)
					兼任 講師	Samuel Shooklyn		平成21年4月	英語 I	平成21年4月 前任者辞退による担当者変更(21)
					兼任 講師	Zoe Jenkins		平成21年4月	英語 I	
					兼任 講師	Sarah Menkedick		平成21年4月	英語 I	平成21年4月 履修者増加によるクラス追加(21)
					兼任 講師	Scott Teresa		平成21年9月	英語 I	平成21年9月 前任者辞退による担当者変更(22)
					兼任 講師	Merdinger Kristy		平成21年9月	英語 I	
					兼任 講師	Cairns Jeremy Shaw		平成22年4月	英語 I	平成22年4月 前任者辞退による担当者変更(22)
					兼任 講師	Merdinger Kristy Michelle		平成22年4月	英語 I	
					兼任 講師	Martens Janice Camille		平成22年4月	英語 I	
兼任 講師		福谷 敏	平成21年4月	数学の指導法Ⅳ	兼任 講師	竹内 英人		平成21年4月	数学の指導法Ⅳ	平成21年4月 前任者辞退による担当者変更(21)
兼任 講師		富久田 治彦	平成20年4月	器楽Ⅰ 器楽Ⅱ 器楽セミナーⅠ 器楽セミナーⅡ						
兼任 講師		Michael Edward Griffin	平成20年4月	英語Ⅱ	兼任 講師	Iain Maloney		平成20年4月	英語Ⅱ	平成20年4月 前任者辞退による担当者変更及びクラス編成の都合による担当者追加(20)
					兼任 講師	Patricia Persad		平成20年4月	英語Ⅱ	
					兼任 講師	Rebecka Benedict		平成20年9月	英語Ⅱ	平成20年9月 前任者辞退による担当者変更(21)
					兼任 講師	Shawn Weldon		平成20年9月	英語Ⅱ	
					兼任 講師	Samuel Shooklyn		平成21年4月	英語Ⅱ	平成21年4月 前任者辞退による担当者変更(21)
					兼任 講師	Zoe Jenkins		平成21年4月	英語Ⅱ	
					兼任 講師	Sarah Menkedick		平成21年4月	英語Ⅱ	平成21年4月 履修者増加によるクラス追加(21)
					兼任 講師	Rowland paul		平成21年9月	英語Ⅱ	平成21年4月 前任者辞退による担当者変更(22)
					兼任 講師	Cairns Jeremy Shaw		平成22年4月	英語Ⅱ	平成22年4月 前任者辞退による担当者変更(22)
					兼任 講師	Merdinger Kristy Michelle		平成22年4月	英語Ⅱ	
兼任 講師		松下 晴彦	平成20年4月	カリキュラム論	兼任 講師	吉川 卓治		平成22年4月	カリキュラム論	平成22年4月 前任者辞退による担当者変更(22)
兼任 講師		水戸 博之	平成20年4月	ポルトガル語入門Ⅰ ポルトガル語入門Ⅱ	兼任 講師	重松 由美 (39)		平成20年4月	ポルトガル語入門Ⅰ ポルトガル語入門Ⅱ	平成20年4月 前任者辞退による担当者変更(20)
兼任 講師		安野 史子	平成21年4月	離散数学 数学の指導法Ⅲ						
兼任 講師		八巻 哲示	平成20年4月	物理の世界						
兼任 講師		Roger Todd Beuckens	平成21年4月	英語ⅢB(英会話等)	兼任 講師	Michael Delve		平成21年4月	英語ⅢB(英会話等)	平成21年4月 前任者辞退による担当者変更(21)
					兼任 講師	Rowland Paul Jonathan		平成22年4月	英語ⅢB(英会話等)	平成22年4月 前任者辞退による担当者変更(22)
兼任 講師		若林 亜由	平成20年4月	器楽Ⅰ 器楽Ⅱ 器楽セミナーⅠ 器楽セミナーⅡ						
					兼任 講師	井上 綾		平成19年4月	基礎ピアノⅠ 基礎ピアノⅡ	平成19年4月 履修者増加によるクラス追加(19) 平成19年9月 履修者増加によるクラス追加(20)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講 師	岩野 めぐみ	平成19年4月	基礎ピアノⅠ 基礎ピアノⅡ ピアノⅡ	平成19年4月 履修者増加によるクラス追加(19) 平成19年9月 履修者増加によるクラス追加(20) 平成20年4月 履修者増加によるクラス追加(20)
					兼任	講 師	佐部利 弦	平成19年4月	基礎ピアノⅠ 基礎ピアノⅡ ピアノⅠ	平成19年4月 履修者増加によるクラス追加(19) 平成19年9月 履修者増加によるクラス追加(20) 平成20年4月 履修者増加によるクラス追加(20)
					兼任	講 師	星野 順一	平成20年4月	器楽Ⅰ 器楽Ⅱ	平成20年4月 履修者増加によるクラス追加(20) 平成20年4月 履修者増加によるクラス追加(20)
					兼任	講 師	天久 由紀	平成20年4月	器楽Ⅰ 器楽Ⅱ	平成20年4月 履修者増加によるクラス追加(20) 平成20年4月 履修者増加によるクラス追加(20)
					兼任	講 師	天久 由紀	平成21年4月	器楽セミナーⅠ 器楽セミナーⅡ	平成21年4月 履修者増加によるクラス追加(21) 平成21年4月 履修者増加によるクラス追加(21)
					兼任	講 師	小島 千恵子	平成21年4月	保育内容総論	平成21年4月 教育内容充実に伴う担当教員の追加(21)
								平成21年9月	幼児理解の理論と方法	平成21年9月 教育内容充実に伴う担当教員の追加(22)
					兼任	講 師	定行 和子	平成21年4月	ピアノⅡ	平成21年4月 教育内容充実に伴う担当教員の追加(21)
								平成22年4月	ピアノⅠ	平成22年4月 別の兼任教員からの変更に伴う担当教員の追加(22)
					兼任	講 師	藤田 雅也	平成20年9月	図画工作の指導法	平成20年9月 教育内容充実に伴う担当教員の追加(21)
								平成21年4月	図画工作	平成21年4月 教育内容充実に伴う担当教員の追加(21)
					兼任	講 師	芝木 志保	平成21年4月	基礎ピアノⅠ 基礎ピアノⅡ	平成21年4月 履修者増加によるクラス追加(21) 平成21年4月 履修者増加によるクラス追加(21)
					兼任	講 師	高木 教子	平成21年4月	基礎ピアノⅠ 基礎ピアノⅡ	平成21年4月 履修者増加によるクラス追加(21) 平成21年4月 履修者増加によるクラス追加(21)
					兼任	講 師	山本 祐子	平成21年4月	基礎ピアノⅠ 基礎ピアノⅡ	平成21年4月 履修者増加によるクラス追加(21) 平成21年4月 履修者増加によるクラス追加(21)
					兼任	講 師	齋藤 善郎	平成22年4月	保育指導法(環境)	平成22年4月 教育内容充実に伴う担当教員の追加(22)

(2) 専任教員数

認 可 時 の 計 画						変 更 状 況						備 考
教 授	准教授	講 師	助 教	計	助 手	教 授	准教授	講 師	助 教	計	助 手	
16	8	2	0	26	0	17	8	2	0	27	0	
(14)	(8)	(2)	(0)	(24)	(0)	[1]	[]	[]	[]	[1]	[]	

(注) ・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[] 内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員交代の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1		該当なし	
2			
3			

(注) ・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (17年11月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (19年1月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (20年1月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (22年2月)	該当なし		

(注) 1 「認可時」欄には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度（丸数字）を付記してください。

2 「設置計画履行状況調査時」欄には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。

3 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。

4 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学部 子ども発達学科>

(1) 設置計画変更事項等

認 可 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①平成19年度開設授業科目の年間開講数（クラス数） (1) 保育指導法（言葉） 2クラス (2) 保育指導法（健康） 2クラス (3) 保育指導法（環境） 2クラス (4) 基礎ピアノⅠ 4クラス (5) 基礎ピアノⅡ 4クラス	①履修者増加に伴い、適正な授業運営を図るため、開講数を増加した。 (1)～(3)の授業科目については、認可時の担当教員により各1クラスを追加開講し、(4)(5)の科目については、認可時の担当教員に加え、新たに教員資格審査を受けた専任教員及び非常勤講師を追加することにより、9～10クラスを追加開講した。 平成20年度についても、同様に履修者増加となる科目が見込まれるため、授業種別・内容に照らして、必要なクラス増等の対応をとる予定である。 〔平成19年度 変更後のクラス数〕 (1) 保育指導法（言葉） 3クラス (2) 保育指導法（健康） 3クラス (3) 保育指導法（環境） 3クラス (4) 基礎ピアノⅠ 13クラス (5) 基礎ピアノⅡ 14クラス
②平成20年度開設授業科目の年間開講数（クラス数） (1) 保育指導法（人間関係） 2クラス (2) 保育指導法（表現） 2クラス (3) ピアノⅠ・Ⅱ 1クラス (4) 器楽Ⅰ・Ⅱ 2クラス 平成21年度開設授業科目の年間開講数（クラス数） (1) ピアノセミナーⅠ・Ⅱ 2クラス (2) 器楽セミナーⅠ・Ⅱ 2クラス	②履修者増加に伴い、適正な授業運営を図るため、開講数を増加した。（平成19年度入学生の2年次、3年次進級にともなう対応※上記①関連） 今後も同様に履修者増加となる科目が見込まれる科目については、授業種別・内容に照らして、必要なクラス増等の対応をとる予定である。 〔平成20年度 変更後のクラス数〕 (1) 保育指導法（人間関係） 3クラス (2) 保育指導法（表現） 3クラス (3) ピアノⅠ・Ⅱ 4クラス (4) 器楽Ⅰ・Ⅱ 4クラス 〔平成21年度 変更後のクラス数〕 (1) ピアノセミナーⅠ・Ⅱ 3クラス (2) 器楽セミナーⅠ・Ⅱ 3クラス
③平成21年度開設授業科目の年間開講数（クラス数） (1) 保育指導法（言葉） 2クラス (2) 保育指導法（健康） 2クラス (3) 保育指導法（環境） 2クラス (4) 基礎ピアノⅠ 4クラス (5) 基礎ピアノⅡ 4クラス (6) 図画工作 2クラス (7) 英語Ⅰ 12クラス (8) 保育内容総論 1クラス	③平成21年度入学生の履修者増加に伴い、適正な授業運営を図るため、開講数を増加した。 平成21年度についても、同様に履修者増加となる科目が見込まれるため、授業種別・内容に照らして、必要なクラス増等の対応をとる予定である。 〔平成21年度 変更後のクラス数〕 (1) 保育指導法（言葉） 3クラス (2) 保育指導法（健康） 3クラス (3) 保育指導法（環境） 3クラス (4) 基礎ピアノⅠ 18クラス (5) 基礎ピアノⅡ 18クラス (6) 図画工作 4クラス (7) 英語Ⅰ 16クラス (8) 保育内容総論 2クラス
	④教養教育科目について、大学の教養教育共通化を先取りして、また、学生の科目選択の幅を拡大することを目的とし、平成22年4月設置構想中の「看護学部看護学科（仮称）」との間で一部科目（講義科目）の合同実施を予定している。「看護学部看護学科（仮称）」の学生は平成22年度から、教育学部で開講される教養教育科目「人類学入門」「哲学入門」「物理の世界」「化学の世界」を履修可能とし、教育学部の学生は完成年度後の平成23年度以降看護学部開講の教養教育科目の一部を履修可能とする予定である。
	⑤山田真紀准教授の出産（出産休暇・育児休暇）のため、平成21年度後期実施の当該教員担当科目について、一時的に別の教員が担当する（5(1)「担当教員表」参照）。平成22年度については、当該教員が復帰し、授業を担当する予定である。

	⑥「海外教育研修Ⅱ（実地研修）」について、専任教員2名（宇土泰寛、山田真紀）のオムニバス科目として申請していたが、平成19年度、平成20年度の過去2年間の担当状況を確認したところ、1人の担当教員（宇土泰寛）が全てを担当していたことが明らかとなった。 このことについては、上記⑤との関連もあり、当該科目を1名（宇土泰寛）が全てを担当する内容で平成21年6月の教員審査を受ける予定である。審査が認められれば、翌平成22年度以降も1名（宇土泰寛）が本年度提出の審査内容のもとで実施する予定である。
	⑦本学部は保育士養成施設として厚生労働省から認可を受けており、保育士資格取得のために保育実習を実施している。児童福祉施設における保育実習の内容は介護等体験（小学校1種免許必須）の趣旨に沿った内容を含んでいる場合があり、保育実習によって実習先の施設長から介護等体験の証明が発行される可能性がある。 本学部は小学校1種免許取得のため、介護等体験（1単位）を単位化し、必修としている（学部全体の教育課程上は選択科目）。上記のように、保育実習参加者が実習先施設から介護等体験の証明を得られた場合には、別途の介護等体験の一部を免除することとした。 このことについて、保育実習の時間数のみでもって、保育実習に単位を与え、かつ、介護等体験についても単位を与えることについては、実習時間数をダブルカウントして単位を認定することとなるので、履修方法に次の文言を追加した。「保育実習ⅠBもしくは保育実習Ⅲの児童福祉施設での実習証明をもって介護等体験の一部に振り返る場合には、必修とせず単位取得を要しない。」 本件は、学部全体の教育課程としては影響はなく、教職課程申請上必修から選択となることについては、履修方法変更の届けを提出済みである（平成21年3月）。
	⑧「器楽セミナーⅠ・Ⅱ」について、認可時の計画では2クラス（木管楽器・弦楽器）であったが、履修者増加に伴い、適正な授業運営を確保するため平成21年度に開講クラスを3クラス（木管楽器・弦楽器・金管楽器）とした。平成22年度においては、弦楽器履修希望の学生がいなかったため、2クラス（木管楽器・金管楽器）で対応することとした。（※上記②関連）
	⑨教育環境の充実のために、平成22年度よりこれまでの専任教員に加えて、客員教授（非常勤タイプ）2名（保育所・幼稚園担当1名及び小学校・中学校担当1名）も客員教授を採用し、教育実習時の巡回指導の一部を担当することとした。

（２）教員の資質の維持向上の方策（ＦＤ活動含む）

[全学的な取り組み]

① 実施体制

a 委員会の設置状況

全学ＦＤ委員会を設置

全学ＦＤ委員会規準 添付（別紙１）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

○全学ＦＤ委員会委員の任期：平成21年5月1日～平成22年4月30日

第1回：平成21年 4月27日（月）出席委員14名
第2回：平成21年 5月26日（火）出席委員11名
第3回：平成21年 6月30日（火）出席委員11名
第4回：平成21年 7月28日（火）出席委員12名
第5回：平成21年 8月28日（金）出席委員12名
第6回：平成21年 9月29日（火）出席委員12名
第7回：平成21年 10月27日（火）出席委員10名
第8回：平成22年 1月26日（火）出席委員11名
第9回：平成22年 2月23日（火）出席委員10名
第10回：平成22年 3月23日（火）出席委員11名
第11回：平成22年 4月27日（火）出席委員23名（新旧合同）

c 委員会の審議事項等

第1回

1. 学長からの提案（報告）
2. 平成20年度「リフレクション・ペーパー」の閲覧状況について（報告）
3. 平成21年度授業アンケートの実施に関するWGについて（報告）
4. 引継ぎ事項について（報告）
5. 平成21年度全学FD委員会委員長の選出に関する件
6. 平成21年度全学FD委員会活動に関する件
7. その他

第2回

1. 平成21年度全学FD委員会活動について（報告）
2. 平成21年度全学FD委員会学部予算について（報告）
3. 平成21年度FD講演会のお知らせに関する件
4. 平成21年度「FD研修会」及び「FDのための授業公開」の募集に関する件
5. その他

第3回

1. 平成21年度全学FD講演会について（報告）
2. 平成21年度FD研修会に関する件
3. 平成21年度後期授業アンケートに関する件
4. 平成21年度全学FD委員会学部予算に関する件
5. その他

第4回

1. 平成21年度FDのための授業公開について（報告）
2. 平成21年度後期授業アンケートに関する件
3. 平成21年度FD研修会に関する件
4. 新任研修に関する件
5. シラバスに関する件
6. その他

第5回

1. 平成21年度後期授業アンケート実施に関する件
2. その他

第6回

1. 平成21年度FD講演会の実施について（報告）
2. 平成22年度シラバス様式に関する件
3. 平成21年度後期授業アンケートに関する件
4. 平成21年度FD研修会に関する件
5. 平成22年度全学FD委員会活動に関する件
6. 平成22年度全学FD委員会予算に関する件
7. その他

第7回

1. 平成21年度前期授業アンケートについて（報告）
2. 授業アンケートのシステム化について（報告）
3. 平成21年度FD研修会に関する件
4. 平成21年度後期授業アンケートに関する件
5. 平成21年度全学FD委員会活動報告書の作成に関する件
6. 平成22年度全学FD委員会予算に関する件
7. 平成22年度新任教員研修（教学）に関する件
8. その他

第8回

1. 平成21年度FD研修会の実施状況について（報告）
2. 平成21年度後期授業アンケートの進捗状況について（報告）
3. 平成21年度全学FD委員会活動報告書の執筆担当者について（報告）
4. 平成21年度予算の執行状況について（報告）
5. 平成22年度全学FD委員会活動に関する件
6. 全学FD委員会検討課題について
7. その他

第9回

1. 平成21年度後期授業アンケート実施状況について（報告）
2. 平成21年度リフレクション・ペーパーの提出状況について（報告）
3. 平成21年度リフレクション・ペーパーの公開（閲覧）について（報告）
4. 平成21年度授業アンケート実施に関する意見書について（報告）
5. 相山女学園大学全学FD委員会規準の一部改正（案）に関する件
6. 平成22年度授業アンケートに関する件
7. その他

第10回

1. 平成21年度リフレクション・ペーパーの提出状況（最終版）について（報告）
2. 平成21年度全学FD委員会予算執行状況について（報告）
3. 平成22年度新任教員研修について（報告）
4. 平成22年度授業アンケートに関する件
5. その他

第11回

1. 学長からの提案（報告）
2. 平成21年度リフレクション・ペーパーの閲覧状況について（報告）
3. 平成22年度前期授業アンケートの実施について（報告）
4. 平成21年度全学FD委員会予算の執行状況について（報告）
5. 平成22年度全学FD委員会予算について（報告）
6. 引継ぎ事項について
7. 平成22年度全学FD委員会委員長の選出に関する件
8. 平成22年度全学FD委員会活動に関する件
9. 平成22年度前期授業アンケートの実施に関する件
10. その他

② 実施状況

a 実施内容

＜授業評価アンケート＞

b 実施方法

＜授業評価アンケート＞

1・実施の目的

授業が学生にどのように受け止められているのかの全体的傾向を理解し、教員に対して授業の質的向のヒントを提供することを目的とする。

2. 実施時期

平成21年11月30日（月）～12月 5日（土）（予備日）

平成21年12月 7日（月）～12月12日（土）

平成21年12月14日（月）～12月19日（土）（予備日）

3. 対象科目

平成21年度後期開講の授業科目のうち、卒業研究、集中講義、オムニバス形式の科目及び受講者が10名以下の科目を除くすべての科目で実施する。

4. 実施方法

○学生へ授業アンケートの実施について学生支援システムのジャーナル機能を利用し通知。

○対象科目ごとに封入された授業アンケート調査用袋を各学部事務室、教員のメールボックスに配布。

○授業時間内に実施。時間は15分～20分。学生がアンケートに回答している間は、匿名性が保たれるよう、十分に配慮する。

○実施済みのアンケート用紙は、学部事務室まで提出。

○授業ごとの集計結果を、各学部事務室の教員のメールボックスまたは、自宅へ送付。

c 実施状況（教員の参加状況含む）

＜授業評価アンケート＞

○実施対象科目数1,048科目の内、862科目で実施した。（82.3%）

○実施教員数は、346名であった。（79.5%）

○「リフレクション・ペーパー」（「授業についてのアンケート調査」結果を踏まえた授業評価）の提出者は、229名であった。（57.0%）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

＜授業評価アンケート＞

○教員による「リフレクション・ペーパー」（「授業についてのアンケート調査」結果を踏まえた授業評価）を科目ごとに作成し、学生支援システムを使用して、PDF版冊子を当該学部の学生に対し閲覧可能とした。（学生のアクセス数は、合計 5,767件であった。）

○授業アンケート結果を踏まえた自己点検・授業評価（冊子）を作成し教員同士が閲覧できるようにした。

○授業アンケートの分析結果を掲載した、全学FD委員会活動報告書（PDF版）を大学のホームページに公開した。

a 実施内容

＜新任教員研修開催＞

b 実施方法

＜新任教員研修開催＞

開催日：平成21年4月1日

新任教員に対して、学生支援システム的使用方法について研修会を行なった。

a 実施内容

＜FD研修会の開催＞

c 実施状況

<FD研修会の開催>

開催日：平成21年12月24日（木）10:30～12:20

対象者：大学の教育職員、大学の非常勤講師（希望者）、事務職員（希望者）

場 所：本学星が丘キャンパス文化情報学部メディア棟001講義室

テーマ：FD活動の成果と課題

話題提供者：全学FD委員

①米田公則 —大学に求められているFD活動—

②塚田守 —全学FD活動と学部FD活動の補完的關係—

③宮川充司 —新設学部としての教育学部のFD活動—

④田中節雄 —FDの成果と課題—

シンポジウム形式で研修会を実施した。参加者は事務職員5名、教員99名であった。

a 実施内容

<FD講演会の開催>

c 実施状況

<FD講演会>

開催日：平成21年9月17日（木）14:00～15:30

講 師：山田礼子氏 同志社大学社会学部教授、同志社大学教育学部開発センター長

テーマ：学士課程教育の構築に向けて —プロセス評価としての学生調査をベースに—

場 所：本学星が丘キャンパス生活科学部科学部棟B110講義室

参加教員数は76名であった。

[教育学部としての取り組み]

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教育学部FD委員会を設置

構成員：学部長、学部主任2名

b 委員会の開催状況

第1回 平成21年5月8日（火） 出席者3名

1. 平成21年度前期授業アンケート調査について
2. その他

第2回 平成21年6月2日（火） 出席者3名

1. 平成21年度前期授業アンケート調査の実施について
2. その他

第3回 平成21年9月1日（火） 出席者3名

1. 平成21年度前期授業アンケート調査の実施状況について
2. その他

第4回 平成21年10月6日（火） 出席者3名

1. 平成21年度前期実施授業アンケート調査の実施状況について
2. その他

第5回 平成21年11月2日（月） 出席者3名

1. 学部FD研修会について
2. その他

第6回 平成22年2月2日（火） 出席者3名

1. 第4学部D研修会について
2. その他

② 実施状況

a 実施内容

平成21年度教育学部FD研修会

b 実施方法

教育政策の動向に関する多様なテーマで、学内外の専門家による講演等を行った。

c 開催状況

平成22年3月2日（火）

テーマ 「教員養成政策の最新動向について」

講師 東京女子体育大学教授 田子 健氏

その他 平成21年12月24日（火）全学FD委員会主催のシンポジウムにおける教育学部のFD活動の報告発表

テーマ 「新設学部、教育学のFD活動」 発表者教育学部FD委員 宮川充司氏

- a 実施内容
授業担当者会議
- b 実施方法
半期に数回程度の会合を設ける。会議の内容は主に次のとおり。
 - ・授業内容の共通理解を図る。
 - ・授業運営において有効であると考えられるアイディアを出し合い、さらなる改善のためのディスカッションを行う。
 - ・それぞれの教員が授業実践の内容について報告する。
 - ・有効であった教育方法、授業運営上の留意点などをまとめ、次年度担当者への引継ぎ事項とする。
 - ・平成21年度は「ふれあい実習Ⅰ（観察）」「ケースメソッドⅠ」について、学生のレポートを含む活動記録を取りまとめ、報告書として刊行した。
- a 実施内容
教育学部学生に対する授業評価アンケート実施
平成21年度前期授業については、教育学部が独自に実施し、後期授業については、全学的に実施。
- b 実施方法
授業が学生にどのように受け止められているのかの学部の全体的傾向を把握し、教員に対しての授業の質的向上のヒントを提供することを目的とする。
実施対象、実施方法等については、教育学部独自の調査についても全学的調査の手法に準じて実施分析。
- c 実施状況
 - 実施対象科目 専任教員担当（兼担を含む）129科目中95科目（実施率73.6%）、非常勤講師担当科目79科目中60科目（75.9%）で実施した。
 - 実科教員 専任教員25人（兼任教員1名を含む）中 25人（100.0%）
 - リフレクションペーパー（「授業についてのアンケート調査」結果を踏まえた授業評価）の提出者は、専任25人（兼担1人を含む）中22人（88.0%）、非常勤講師28人中17人（65.0%）だった。
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 - 授業ごとの集計結果を、教員に配付。同時に、リフレクションペーパー（授業アンケート結果を踏まえた自己点検・授業評価）についての執筆依頼を行った。
 - 授業アンケート結果を踏まえた自己点検・授業評価（PDF版）を当該学部学生に対し閲覧可能とした。

（３）自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
(別紙2のとおり)
- ② 自己点検・評価報告書
現在、平成21年度に行なった大学事業の自己点検・評価報告書である「大学年報（第14号）」を刊行する予定で準備を進めている。
 - a 公表（予定）時期
平成22年10月下旬（予定）
 - b 公表方法
 - ・大学のインターネットホームページ上に公開する。
 - ・大学年報を刊行し、専任教職員、官公庁及び他大学に配付する。
- ③ 認証評価を受ける計画
 - ・財団法人大学基準協会による「平成18年度相互評価ならびに認証評価」を受け、平成19年3月13日付けで「適合」の判定を受けた。（有効期限：平成26年3月31日）
 - ・教育学部については、次回の認証評価において評価を受ける予定である。

(4) 情報提供に関する事項

① 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)
- b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (平成19年 7月)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(☒ 承諾する ・ ☐ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.sugiyama-u.ac.jp/daigaku/annai/shinsei.html>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。

なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。

椋山女学園大学全学 F D 委員会規準

平成 1 2 年大規準第 4 号

平成 1 2 年 5 月 1 6 日制定

(趣旨)

第 1 条 この規準は、椋山女学園大学におけるファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development) に関する事項を円滑かつ有効に推進するために設置する全学 FD 委員会 (以下「委員会」という。) について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、前条の趣旨を実現するため、ファカルティ・ディベロップメントに関する次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 企画・立案に関する事項
- (2) 必要な研究調査に関する事項
- (3) 学部間の連繋及び調整に関する事項
- (4) 研究会、講演会及び教員研修等に関する事項
- (5) 大学間の連携等に関する事項
- (6) その他学長が特に必要と認める事項

(委員会)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長が指名する学長補佐
- (2) 各学部の F D 委員会の委員 各 1 名
- (3) 学長が指名する者 若干名

2 前項第 2 号及び第 3 号の委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。

3 第 1 項第 2 号の委員に欠員が生じた場合には、その都度委員を補充しなければならない。この場合において、補充による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員会に、委員長を置き、委員長は学長補佐をもって充てる。

(会議)

第 4 条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長は会議の議長となる。

2 会議は、各学部 1 名以上の委員を含む委員の過半数の出席により成立する。

3 会議には、議長が必要と認めた場合、委員以外の者を陪席させることができる。

(事務)

第 5 条 委員会の事務は、教務課が行う。

(学部委員会)

第 6 条 各学部に学部 F D 委員会を設置するものとする。

2 前項の学部 F D 委員会の構成、委員長の選任方法及び委員の任期については、当該学部の教授会において定める。

(規準の改廃)

第 7 条 この規準の改廃は、委員会が発議し、大学協議会の議を経て学長が決する。

附 則

この規準は、平成 1 2 年 5 月 1 6 日から施行する。

附 則 (平成 1 9 年大規準第 8 号)

この規準は、平成 1 9 年 9 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 2 2 年大規準第 9 号)

この規準は、平成 2 2 年 4 月 1 日から施行する。

(現状の説明)

教育学部は、本大学 6 番目の学部として、平成 19 年 4 月に発足した。

本学部は乳幼児保育、幼稚園から高等学校に至る学校教育、家庭における子どもの養育・しつけ、青少年のカウンセリング、国際化と教育、生涯にわたる人間形成などの保育や教育の諸問題の教育研究を推進し、社会の変化と要請に的確に対応し、学校、保育現場の諸問題に真摯に取り組み、カウンセリングマインドや異文化理解力を持ち、教育愛、使命感を持った教員、保育士となりうる人材の養成を目指している。

学部の構成は、1 学科(子ども発達学科) 2 専修(保育・初等教育専修と初等中等教育専修)からなる。2 専修を設けたのは、保育士資格に関しての厚生労働省からの要請に対応するためである。保育・初等教育専修では、保育士、幼稚園教諭一種、小学校教諭一種の資格ないし免許状を取得することができ、初等中等教育専修では、幼稚園教諭一種、小学校教諭一種、中学校教諭(数学)・(音楽)一種、高等学校教諭(数学)・(音楽)一種の免許状を取得することができる。

以上の目的を達成するため、本学部は以下のことに努めている。

- (1) 子どもの発達を長期的視野に立って考えることのできる教員を養成するため、例えば、保育士と幼稚園教員、小学校教員と中学校教員といったように複数の免許ないし資格取得を奨励する。
- (2) 総合学園である利点を活かして、すべての学生が 1 年次から附属幼稚園・小学校、併設中学校・高等学校での実習に参加できる「ふれあい実習Ⅰ(観察)」をはじめ、多くの学外実習プログラムを準備して、実践力のある教員の養成を目指す。
- (3) ネイティブの教員による英語教育及び海外教育研修により実践的な英語能力を育成し、小学校高学年の外国語活動必修化(新学習指導要領)にも対応しうる教員の養成を目指す。
- (4) 学年ごとに少人数によるフェイス・トゥ・フェイス教育を実施し、学生一人ひとりの自己実現を支援する。

(総括評価)

上記の目的がどの程度達成されたかについては、教員の教育研究活動を大学がまとめて報告する『大学年報』、全学 F D 委員会が取りまとめた学生による授業アンケート調査、教員によるリフレクションペーパー、『椋山女学園大学研究論集』、『教育学部紀要』などで公表した(一部は今後公表予定)。概して、学部 3 年目も順調に教育研究の成果を挙げることができた。その特筆すべき点を所見の項で記す。

(所見)

- ① 平成 21 年度入学者は 209 名(志願者総数 1158 名、定員 147 名)であり、質の高い学生を確保できた。
- ② 附属・併設校との連携による「ふれあい実習Ⅰ(観察)」及び「ふれあい実習Ⅱ(参加)」は、実践的学習として学生に高い評価を得た。「ふれあい実習Ⅰ(観察)」については、238 頁にわたる報告書を作成してその成果を公表している。また、1 昨年(20 年度)から附属幼稚園で実施したプレ実習は、2 年次の保育実習及び施設実習に極めて有益な経験となることが明らかになったので、引き続き保育・初等教育専修の学生 100 名程を対象に 2 週間(学生 1 人につき 1 週間)にわたるプレ実習を実施した。
- ③ 21 年度よりスタートした 3 年生必修のケースメソッドⅠ・Ⅱ、模擬授業演習では、実践的能力育成を目指した。本学部教員のほとんどが担当したこれらの授業はどれも好評で、即戦力となりうる教員を育成することに寄与できた。これらの授業のうちケースメソッドⅠについては、160 頁の報告書を作成した。
- ④ 本学教員による保育士、幼稚園教員を対象とした現職セミナー(保育実践ワークショップ 2009)は、19 年度、20 年度に引き続いて行われた。21 年度の「子どもの音楽的感性を育てる～音遊びを通して～」と「子どもの言葉を育てる・心を育てる～『キラキラ』『ブーブー』、それってなあに?～」の両講座とも高く評価され、学部の指導内容、方法が現職教員、保育士に受け入れられるものであることが実証された。
- ⑤ 月曜日から金曜日まで毎日 40 分ずつ通年で開講する教養教育科目「英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(Ⅲは選択科目)は、学生に好評で脱落者も無く、しかも、ケンブリッジ英語検定試験の成績は、一般標準より優秀であり、小学校の外国語活動に対応することができ教員の養成に大きく貢

別紙 2

献すると考えられる。なお、実践的英語力とともに異文化理解力の育成を目指した海外教育研修は、新型インフルエンザの世界的大流行のためオーストラリアにおける現地研修を 21 年度は中止した。

- ⑥ 保育士、幼稚園・小学校教諭に必要な技能を育成する「基礎ピアノⅠ・Ⅱ」は、昨年に引き続き希望者全員を受け入れた。また、21 年度設置された ML 教室、新たに設けられた音楽個人練習室は、実習準備の学生、音楽コースの学生の演奏能力向上に大きく貢献した。
- ⑦ 数学教諭希望者に専任教員が補習教育を実施して、学生の実力向上に寄与した。
- ⑧ 3 年生が応募資格のある名古屋教師養成塾にキャリア教育委員会が中心となって指導した結果、35 名が応募し、15 名(1 名は他学部学生)の学生が合格した。この数は、応募大学の中で 1 位であった。